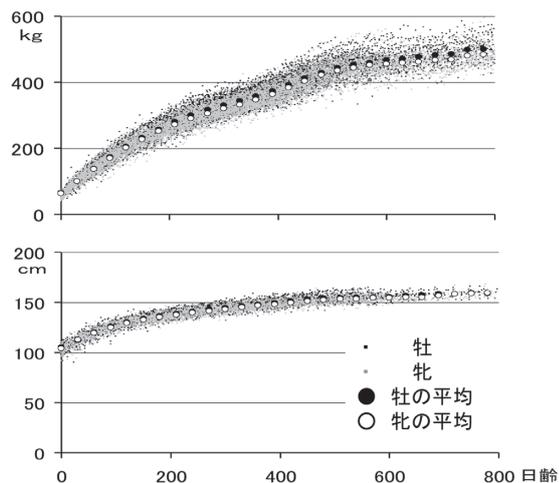


## 馬の発育の調査から — 日高の馬の標準的な発育は? —

現在の日高でのサラブレッドの発育を、実際に知ってもらうために、日高の各牧場(27牧場)で、概ね1ヵ月おきに測った体重、体高のデータを図に示してみました。

図-1に示す点は、その時期の計測値を示すもので、牡は黒、牝は灰色で示しました。この図では示せませんでしたが、馬を個別別に線で結ぶ事も出来ます。大きな黒丸、白丸は、30日齢ごとに、牡、牝それぞれを平均値で示したものです。体重、体高(「き甲」の高さ)について、ともに牝は牡に比べてやや低くなっています。牡・牝の発育の差は、性ホルモンによる影響と思われる、どの時期から差が開いてくるのかを考慮しなくてはならないでしょうが、この調査からははっきりしませんでした。

図-1 牡牝別の体重・体高の変化

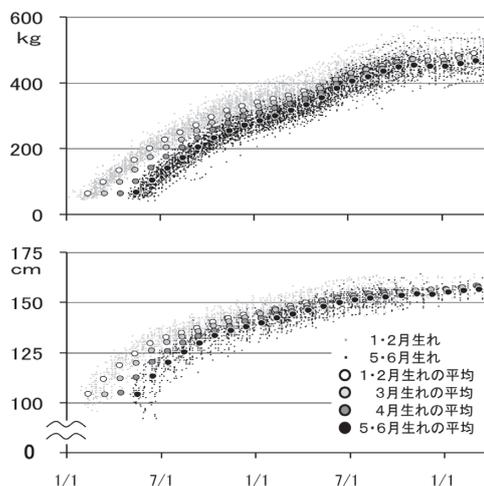


点の分布を見ても、丸印を見ても、体高の変化は比較的単純な曲線を描いていますが、体重の変化は、200から400日齢に、いちど停滞していることが分かります。

この時期の体重増加の停滞が何によるのかを知るために図-2では、体重、体高の変化を、日齢でなく実際の月日に代えて表わしてみました。計測値は点で示しましたが、灰色は1月・2月生れ、黒は5月、6月生れを示します。3月生れ、4月生れはその間に分布しますが、表示は省略しました。丸印は、生れ月毎に平均した値を示したもので、早い月の順に白丸から黒丸に色を濃くしています。

体重の変化に着目すると、停滞するのは、日齢によるものではなく、当歳の11月から1歳の4月ころまでということが分かります。つまり冬の期間は仔馬の成長、特に体重の増加が停滞するという事です。寒さのストレス、日照時間が短い

図-2 誕生月別の体重・体高の変化



事、青草が育たない事、雪が積もれば運動が制限される事などいろいろな原因が考えられます。そして1歳の春から夏にかけて、体重の増加は再び勢いを取り戻します。「馬肥ゆる秋」と言いますが、1歳馬の発育でみると、急に大きくなるのは、春から夏に掛けてでした。

仔馬の発育をもっとよく知るために、1日あたりの体重、体高の増加量の変化を示したのが図-3です。1歳の秋(オータムセールの頃まで)には、早生まれの馬も遅生まれの馬も、ほぼ同じような大きさになっていますが、遅生まれの馬は、早生まれの馬に比べて、冬の影響による停滞が比較的少ないことと、1歳春から夏にかけての成長の勢いがより大きいようです。気候の問題ばかりでなく、遅生まれの馬には意識的に餌を多めに与えてしまうなど、飼養管理の方法によっても、これらの影響を減らしているのかも知れません。いずれにせよ、北海道日高の気候、風土と、現在の日高の飼養技術が相まって、ここで示したような成長をしているのでしょう。

図-3 誕生月別の1日あたりの体重・体高の増加量

